



TITLE:

研究活動報告II

AUTHOR(S):

CITATION:

研究活動報告II. 資本と地域 2006, 3: 53-53

ISSUE DATE:

2006-10

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/66147>

RIGHT:

れることが素直にうれしい。

8 月 12 日 (土)

早朝に墓参りを済ませ、その足で研究室へ向かう。18 時まで研究活動を行い、その後は研究室メンバーと飲み会に行く。アルバイト生活に追われる筆者の慰労会も兼ねてセッティングしてくれた後輩院生の心遣いに感謝し会に出席する。当夜は、大学院生も社会人も男女も問わず、出席者の多くが将来に対して漠然とながらも浅からぬ不安を抱いていることを暗に確認して散会した。

8 月 20 日 (日)

明日から夏季講習の最終週が始まる。今朝の朝刊にはアジア留学生を対象とした無償奨学金制度が経済産業・文部科学両省により開始されるとの記事がでている。筆者は授業料免除などを受けることなく京都

大学大学院に 7 年間に渡って毎年授業料を支払い、現在も半期約 27 万円もの授業料の支払いのために、総額 13 万円前後の収入が得られる見込みの夏季講習アルバイトに多くの時間をとられている。

「手弁当」と「自学自習」を院生指導のモットーとする教授連は、現在の大学院生がどういった社会的状況の中で、いわゆる授業料の支払いのためにいかにして稼ぎそれを支払ってきたのか、そして現在も支払い続けているのか、本当に理解しているのだろうか？彼らも社会学者であるならば、彼ら自身の利益と組織の存続のみにとらわれるばかりではなく、日本の大学院教育のありかたについて、その現状をわれわれ院生とオープンに議論できる度量をもっていただきたい。

(京都大学大学院経済学研究科)

研究活動報告 II

地域経済研究会

2005 年 12 月 10 日 (土)

○相楽美穂氏 (立命館大学)

「天然資源管理における予防原則の適用」

○岡田知弘氏 (京都大学)

「日本経済史の地域論的再構築のためにー地域形成史の射程ー」

2006 年 2 月 12 日 (日)

○倪卉氏 (京都大学大学院)

「中国蚕糸業の展開と現状ー浙江省と江蘇省の事例を中心にー」

○郭思宜氏 (京都大学大学院)

「台湾における原子力政策の展開と現局面」

○槌田 洋氏 (日本福祉大学)

「中山間地域集落の維持可能性～長野県阿智村の事例から」

2006 年 4 月 22 日 (土)

○渡邊英俊氏 (京都大学大学院)

「第 1 次大戦前におけるアルゼンチン貿易の変化と構造」

○池田 清氏 (下関市立大学)

「日本における災害の法と組織、行財政の問題と課題」

2006 年 6 月 17 日 (土)

○書評：大貝健二氏 (京都大学大学院)、林 昌宏氏 (京都大学研究生)

コメント：阿知羅隆雄氏 (滋賀大学)、鎌倉 健氏 (大阪樟蔭女子大学)

岡田知弘編著『京都経済の探究』高菅出版、2006 年 2006 年 9 月 9 日 (土)

○大貝健二氏 (京都大学大学院)

「戦後における金属加工産地の構造変化と燕産地の適応力 - 産地内分業における研磨工程を中心に -」

○倪卉氏 (京都大学大学院)

「現代中国における蚕糸業の展開 - 浙江省と江蘇省の事例を中心に -」

○瀬尾泰大氏 (奈良県総務部財政課)

「今後の極小規模自治体の行政運営について」

○飛鷹茂忠氏 (滋賀大学大学院)

「森林・林業の担い手問題 - 聞き取り事例を中心として -」